

分析方針・戦略に関する ディスカッション

2025/6/12

参加メンバー（敬称略）

幸良・井口・横内・青木・山本

分析のゴールの確認

- 小委員会企画趣旨（資料より）
 - 「ウェルビーイング向上に取り組むことで、（中略）組織の生産性の向上や離職率の低下のみならず、企業価値の向上とそれに伴う有能な人材の確保へとつな（げる）」
- 政策提言
 - ①誰に対して，②何をどのようにすれば，ウェルビーイング向上につなげられるか？
 - ①対象 (who)：建設業従事者の全体を対象にする施策もあれば，一部の対象者に特化した施策もある
 - ②内容・手段 (what, how)：ワークライフバランス，待遇，達成感，安全性など，施策の内容や手段也多岐にわたる

今回のデータの強みと限界

- 今回の調査の強みのひとは...
 - 質的調査から生成した幅広いポジティブ項目（P項目）とネガティブ項目（N項目）を尋ねていること
 - P項目の例：「スキルを身に付けることができる」ことは、自身が幸福に仕事をするためにどれくらい重要か？
 - N項目の例：「危険な仕事がある」ことは、自身の幸福にどのくらい悪い影響を与えるそうか？
 - つまり、今の仕事がどのくらい「スキルを身に付けることができる」か、「危険な仕事がある」かを尋ねているのではなく、それが自身にもたらす影響を尋ねている

今回のデータの強みと限界

- 一方で限界としては、P項目とN項目が何を表すのか、やや曖昧なところがある

考え方1

P項目・N項目への回答は
この関連を表す

働き方や職場環境の実態

スキルを身に付ける
ことができる

危険な仕事がある

ウェルビーイングの実態

幸福度

今回のデータの強みと限界

考え方2

働き方や職場環境に対する
内面的な価値観／重視度

P項目・N項目への回答は
この程度を表す

スキルを身に付ける
ことができる

危険な仕事がある

働き方や職場環境の実態

スキルを身に付ける
ことができる

危険な仕事がある

ウェルビーイングの実態

幸福度

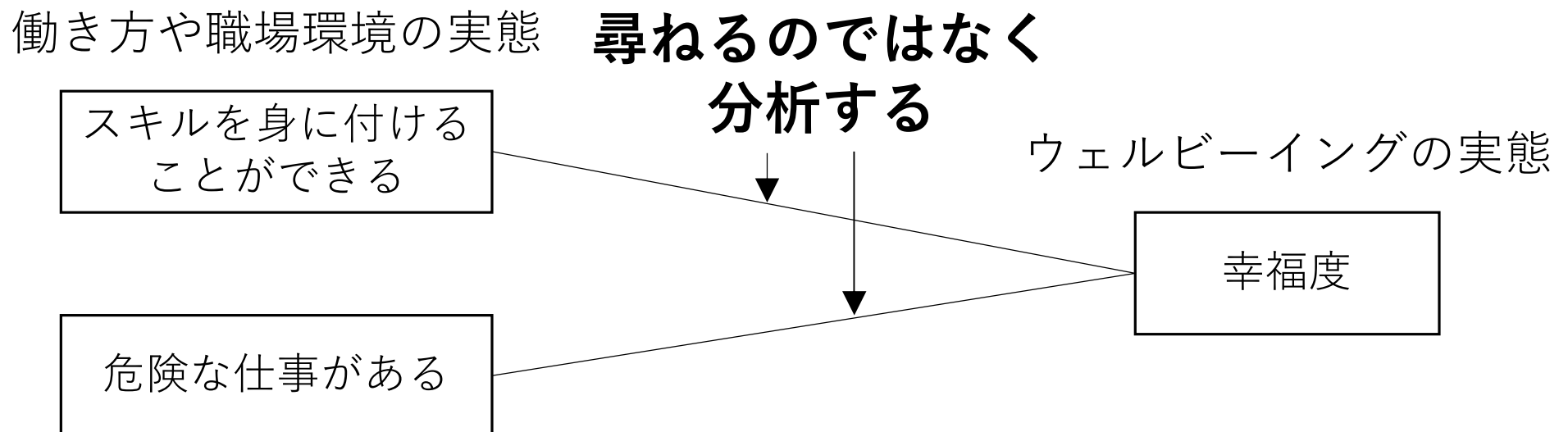
データ・分析・政策提言の整合性

- 考え方1に基づいてデータを捉えるのであれば、P項目とN項目の値からそのまま政策提言②に結び付けることができる
 - 例：「スキルを身に付けること」が幸福度にとって重要であると感じている人が多いため、スキルを身に付けられるような働き方や職場環境の整備が政策的に重要
- また、P項目・N項目と対象者の属性との関連に基づいて政策提言①にも結び付けることが可能
 - 例：現場で勤務している男性従業員に関しては、スキルを身に付けられるような働き方や職場環境の整備を進めることが政策的に重要

少し違和感があるが、それはなぜか？

データ・分析・政策提言の整合性

- 一般的には、「働き方や職場環境の実態」と「ウェルビーイングの実態」の両方をデータとして収集し、両者の関連は分析によってはじめて推定される
- 考え方1では、こうしたプロセスを経ずに両者の関連を直接尋ねられると仮定している
 - 強い仮定であり、多くの場合は上記の推定結果と乖離している
 - つまり本人が「重要だ」と思っているだけで、実際には幸福度にあまり寄与しない可能性も十分にある → 有効でない政策提言



データ・分析・政策提言の整合性

- 考え方2に基づいてデータを捉えるのであれば、P項目やN項目と幸福度の関連を分析したところで、政策提言②に結び付けることは難しい
 - 例：「スキルを身に付けること」を価値観として強くもっている人／重視している人は幸福度が高い傾向にあるため、こうした価値観を身に付けられるようにすることが政策的に重要（？）
 - 本来は働き方や職場環境の整備に関する政策提言には結びつけたいはずが、個人の問題に置き換わっている

考え方2に基づく場合、どのような分析が有効か？

価値観のパターンに関する分析

- 考え方2は、政策提言①につなげた分析において強みを発揮できる可能性がある
 - 例：クラスター分析（小委員会資料より）



	特徴類推	分類サンプル数	H05_幸福度	J02_仕事の満足度	C04_土木業界に対する愛着	P/N項目特徴
クラスター1	若手	1903	19.54	4.79	3.88	P/Nどちらも全般的に高い（周囲の環境に敏感）
クラスター2	生活重視	2675	18.16	4.38	3.42	P/N両方のWLBや健康、勤務地に関する項目が高い
クラスター3	悲観的	1524	17.60	4.15	3.15	P項目が全般的に低い
クラスター4	中庸	3063	19.36	4.85	3.86	相対的に平均的
クラスター5	楽観的	914	20.02	5.26	3.94	N項目が全般的に低い

価値観のパターンに関する分析

- 建設業界における価値観のパターンを分析（分析1）することで、マジョリティーの価値観や、マイノリティーの価値観が可視化できる可能性がある
- 建設業界における現状の働き方や職場環境は、マジョリティーの価値観をもつ人々にとっては有利かもしれないが、マイノリティーの価値観をもつ人々にとっては不利に機能している可能性がある
 - 価値観のパターンと幸福度の関連を分析する（分析2）
- 労働力人口が減少している中、土木業界において多様な人材を確保し、そのポテンシャルを最大限に発揮するためにも、特にどのような人々のウェルビーイング向上が喫緊の課題であるか、今後の政策提言②の基礎となる知見が得られることが期待される

価値観のパターンに関する分析

- 考え方2に基づいて政策提言①を念頭に分析する場合、クラスター分析はどこまで有効であるか？
 - 強み
 - 分析がシンプルである
 - 項目群の次元を考慮しなくてよい（P項目とN項目をそのままいっぺんに分析できる）
 - 限界
 - 項目の数が多い場合、結果の解釈が難しい（各クラスターが何を表しているか解釈しづらい）
 - 項目群の中に複数の次元がある場合にも、結果の解釈が難しくなる

価値観のパターンに関する分析

- 他にも可能な分析方法
 - 因子分析
 - 潜在クラス分析